

公開講演会

入場無料・要予約

衣〈ころも〉と心〈こころ〉 —染織史をつむぐ絆—

京都国立博物館 学芸部 企画・工芸室長
山川 暁 氏

講師紹介

お茶の水女子大学、神戸大学大学院にて美術史を学ぶ。博士(人文科学・お茶の水女子大学)。徳川美術館学芸員を経て、2001年より京都国立博物館染織担当研究員として勤務、企画した特別展「高僧と袈裟—ころもを伝えこころを繋ぐ」の図録にて第23回国華賞受賞。京都大学大学院客員教授、文化庁文化審議会専門委員。

講師より 博物館を訪れると、作品のかたわらには必ず、その作品について語る題箋が添えられています。そこには作品名称や所蔵者などの情報とともに、必ずや製作年代が記されていることでしょう。この題箋の原稿を作成するのが、私たち博物館の研究員(学芸員)の大切な仕事なのですが、その情報、とりわけ製作年代を定める方法論について、私は研究を重ねてきました。なぜその年代に製作されたと考えるのか、確からしい根拠は何か。作品を手にとることができる恵まれた立場にあって問いかけを続け辿り着いたのが、織物の構造や染物の技法といった、製作技法の分析研究です。

その研究において基準となるのが、作品そのものに記された墨書などにより製作年代や着用者などの情報が判明する作品です。今回は、染織品の中でも衣服に焦点を絞り、貴重視されづらい脆弱な衣服が、墨書を記してまで後世に伝えられた背景にひそむ先人の想いを確かめ、その後ろ盾によって紡がれる染織史研究についてお話したいと思います。

令和4年5月14日(土) 14:00~16:00 (13:30開場)

会場: 国際交流留学生プラザ4階 同窓会共用室A,B,C

申込先: (社)桜蔭会(お茶の水女子大学同窓会)東京支部

〒112-0012 東京都文京区大塚 2-20-1-3階

TEL/FAX: 03-5981-8026

ホームページ: <https://ouinkaitokyo.jimdofree.com>



ホームページURL

オンラインでの参加もできます。オンライン参加ご希望の方は下記メールよりお申し込みください。

E-Mail: ouinkai.tokyo@gmail.com

主催: 桜蔭会東京支部